

特別展関連 シリーズ講座 第 3 回

# 讃岐びとの行く末 次の時代への展開

渋谷 啓一

- 1 はじめに
- 2 留守所の在庁官人
- 3 讃岐国の留守所
- 4 讃岐国府の発掘から
- 5 次の時代へ
- 6 おわりに 讃岐びとの行く末 次の時代の讃岐びと

## 1 はじめに ～これまでのシリーズ講座のまとめ～

(第 1 回)「時代を動かした讃岐びとたち」(7 月 9 日実施)

→讃岐びとの地域経営等の様子を紹介

(第 2 回)「讃岐国府の実像に迫る」(8 月 20 日実施)

→発掘調査から見えてきた讃岐国府の様子を紹介

(シンポジウム)「地域から見る古代史の可能性」(10 月 29 日実施)

→9 世紀の讃岐国の様子を考える

※今回は、11 世紀以降の讃岐びとを紹介

## 2 留守所の在庁官人

○「留守所」とは？

=国司が赴任していない「国府」

○国司制度の変遷

国司：守（かみ）一介（すけ）一掾（じょう）一目（さかん） 四等官

受領国司と任用国司：最高責任者と、それ以外の国司

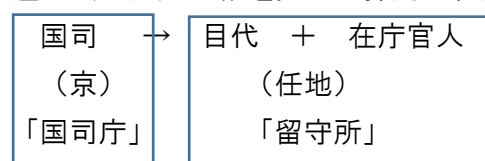
・「受領」と「分付」／「受領」＝後任国司、「分付」＝前任国司

・国司の権限増大（10 世紀以降。※菅原道真の「寛平の治」からの政策）

・任用国司の性格が変化 →受領国司の下で働く家司的な存在に

遥任（ようにん）：受領が任国に赴任しない

→代理人（目代）を派遣。地元採用の在庁官人と目代で政務を執る



※讃岐国司の特徴＝「参議任国」…議政官である参議が、讃岐守を兼任する  
＝讃岐守は赴任しない（遥任）

<議政官＝左右大臣・大納言・中納言・参議>

→参議への俸禄としての役職になる（国司としての収入が入る）

#### ○国衙の機能拡大と在庁官人

国司の権限増大 → 国の仕事量増大 → 現地スタッフの拡充

※郡の機能縮小と郡衙の消滅（10世紀）

※郡司クラスの現地有力者が国府の在庁官人に

### 3 讃岐国の留守所

#### ○善通寺・曼荼羅寺関連の文書から

「留守所下文案」（康平6年<1063年>6月8日付、ほか）【史料1】

→署名部に注目

職名：「府老（ふろう）」、「掾（じょう）」

人名：佐伯、凡（おおし）、綾、惟宗（これむね）、藤原、紀、橘

「僧善芳等解案」【史料2】など

→裏書部に注目

職名：「惣大国」、「府老」、「大掾」、「掾」、「大国造」、「散位」

人名：凡、佐伯、綾、紀、橘

※佐伯、凡、綾、惟宗（目代も）など、讃岐国にいる旧来の豪族名が見える

→（康平～治暦年間<1058～1068年>の文書案から導かれる）

※紀、橘、藤原も見える（→応徳元年<1084年>の留守所下文案【史料3】）

→康平～治暦年間の文書を中心に考えると、旧来の豪族が在庁官人として、上申された案件について判を作り署名し、また郡（ここでは多度郡）などへの指示を含んだ下文に署名を加えていたことがわかる。つまり旧来からの豪族が留守所に集まって、讃岐国の国務を遂行していたと考えられる。

### 4 讃岐国府の発掘調査から

#### ○11世紀中ごろ～13世紀の讃岐国府跡

南北約600m、東西約250mの範囲に複数の屋敷地

→「屋敷地の集積」という景観（図参照）

＝豪族たちの宿营地・出張所か

#### ※留守所のあり方

→3・4から、各地域の伝統的豪族が依然として地域を代表しており、現地の代表

として、留守所に詰める在庁官人となっていたと想定できる。  
本拠地と国府（留守所）に両足を乗せて、伝統的豪族は国務を運営していた。

## 5 次の時代へ

### ○綾氏系図【図1】を読み解く

讃留霊王の伝承に基づく氏族系譜からの脱却  
藤原家成との結合

→藤原家成（1107年～1154年）

鳥羽院の寵臣

平忠盛、清盛と親交。平重盛の正室＝家成の女

藤原成親、藤原隆季（四条家の祖）らの父

※鳥羽院、平氏とのつながりを持つ = 綾氏から讃岐藤原氏へ

### ○源平合戦の文献から読み解く

『吾妻鏡』元暦元年九月十九日条【史料4】

5月に源氏方についた讃岐国の武士を掲げている

藤原氏、野（阿野）氏、橘氏、三野氏、仲行事氏、大麻氏

『平家物語』六ヶ度軍【史料5】

「中にも阿波讃岐の在庁ども、平家をそむいて源氏につかんとしけるが」

→阿波国と讃岐国の在庁官人は、平家方から源氏方に寝返る

「平家福原へわたり給て後」

→一の谷合戦の前の時点

（参考）南海通記 信州綾姓記 通考

「讃州三野ノ大領、綾ノ高隼ノ所帯ヲ以テ当国ノ大庁官、綾ノ大夫高親ニ  
賜ツテ世々三野ノ大領トス。故二三野ヲ以テ氏トシテ・・・」

※在庁官人になった「讃岐びと」は、中世武士へと姿を変える

◎「讃岐びと」は自らを変貌させながら、したたかに生き抜いてきた

>>豪族→郡司→「富豪の輩」→在庁官人→武士

→これらは、異なる階層による盛衰ではなく、伝統的な豪族の変貌であった

## 6 おわりに 讃岐びとの行く末 次の時代の讃岐びと